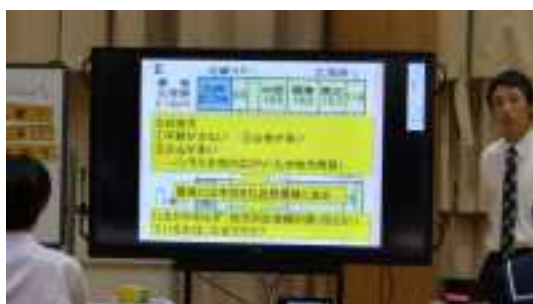


- ② 1学期授業公開週間（6～7月）4名
- ③ 第2回校内研究会 8月19日
1学期授業者への指導助言と、2学期以降の実践者のアクションリサーチ作成
- ④ 第2回校内授業研究会 10月14日
授業者 市谷誠裕（社会）



- ⑤ 2学期授業公開週間（11～12月）9名
- ⑥ 第3回校内研究会 1月7日
2学期授業者への指導助言と、アクションリサーチ及び授業改善の視点についての年間のまとめ
- ⑦ 3学期授業公開週間（1～2月）3名

(2) 授業改善の視点

授業改善の視点として次の4つを定め、授業実践の中から研究検討する。

- ① めあてとして適切な文言
- ② 言語活動に有効な場面、形態
- ③ 言語活動に有効な思考を助ける教具
- ④ ふりかえりの充実

(3) 小中連携、中高連携

小中合同授業研究会（10月28日）をはじめとして、校内授業研究会をお互いに参観し合う。

(4) 町教育委員会主催研修

- ・ 授業力アップ研修（ICT機器の活用）
講師 有松浩司 氏
（広島県竹原市立中通小学校教諭）
- ・ 県外先進校視察
（京都教育大学附属京都小中学校）

5 スーパーバイザーによる指導助言

- ・ 生徒の実態とリサーチクエストとの整合性をとること。
- ・ 曖昧な表現は避け、具体的に書くこと。たとえば、「意欲」は何をもって測るのか。「言語活動」とはどういう活動をさしているのか。「全員参加」させることで何がどう役立つのか、等を明確にしておくこと。
- ・ リサーチクエストは欲張らないこと。1つか2つでよい。
- ・ リサーチクエストは必ずしも教科の目標と一致させる必要はない。
- ・ 検証方法は具体的に捉えられるものを用いること。「観察」とは何をどう観察するのか。「定着」を見るには何の指標を用いるのか。数値的に捉えられるものが望ましい。
- ・ アクションリサーチは1単元程度を単位として実践すること。1時間ごとではなく、単元全体を見通す中で成果を求めること。
- ・ アクションリサーチはシンプルでよい。スモールステップで課題を解決し、次の課題へ向かうこと。

6 研究のまとめ

(1) 成果

- ・ 分析的思考ができるようになった。成果が目に見えるようになった。
- ・ 生徒の問題点改善に役立った（落ち着き）。
- ・ 焦点化するので授業に取り組みやすい。
- ・ めあてとふりかえりを意識すると学習の見通しがたち、定着が把握しやすい。
- ・ 一斉授業からの脱却が進んでいる。
- ・ ICT環境がすばらしく、9割前後の教員がタブレットを活用している。

- ・ 振り返りカードにより生徒が落ち着いて学習した。

- ・ 生徒対象学習アンケート結果（肯定的回答）

	H26.7	H26.12	H27.7	H27.11
理解	85%	73%	87%	83%
興味	58%	54%	65%	65%
満足	53%	57%	64%	58%

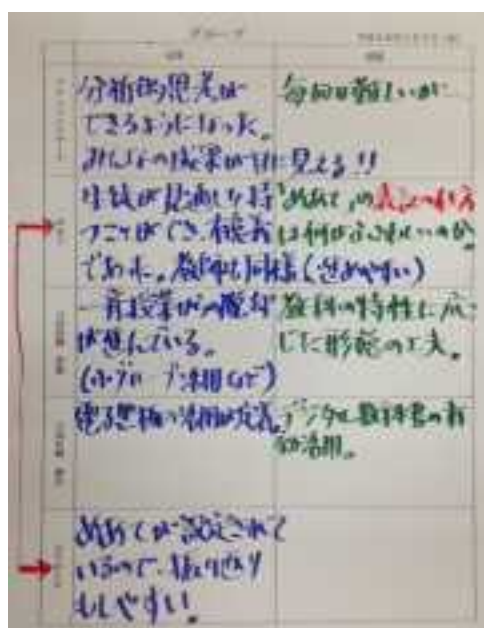
- ・ 標準学力調査結果

5教科3学年で全国平均以上の教科数

H24	H25	H26
3教科/15	5教科/15	9教科/15

(2) 課題

- ・ アクションリサーチは日常的には行っているが、明文化するには時間が必要。
- ・ ペアやグループなどの学習形態の工夫に伴い、話し合いのスキルが必要になる。小学校の実践を活用すべき。
- ・ ICT支援員がいると助かる。準備と後片付けの時間が必要。
- ・ デジタル教科書の有効活用。
- ・ ICTを用いる授業は情報量が多くなる傾向がある。特に、視界から消える情報が出やすいので黒板との併用が大切。



(第3回校内研究会でのグループ発表例)

7 おわりに

21世紀型スキルや21世紀型能力など、子供たちに身につけさせるべき能力観の質的転換がもたれている。そのための学習指導の手法の1つとしてアクティブラーニングがあり、すでに全国、県内にて研修や実践が数多くなされている。

本校においても、第1回授業研究会では合唱指導に歌詞の意味や音色のイメージを持たせながら話し合いをさせ、合唱の質を高める指導を行った。授業の最後に、話し合いで出てきた意見をまとめて合唱練習をしたが、工夫や意識の変化が感じられ、録音して聞かせたら良かったという意見が研究会で出た。また、第2回校内授業研究会ではジグソー法を用いた学習指導に取り組んだ。九州地方の農業が盛んな理由について多面的に考えることができ、生徒たちは理解をより深めたようである。

アクションリサーチは、授業改善を試みるには導入がしやすく、教員個々が持つ課題に沿って取り組むことができ、有効である。スーパーバイザー事業2年目で、アクションリサーチを作ることとその注意点が浸透し始めたと感じる。生徒の学習に関するアンケートでは期待した結果はまだ得られていないが、全職員が共通認識のもと授業改善に取り組むことで、生徒の学習意欲や満足感が少しずつ高まり、ねばり強く学ぶ姿勢がつけられていくものと考えている。